



三井物産株式会社 代表取締役社長 飯島彰己さん

ぶれない基軸を持つ大切さ

子供のころ、我が家の書棚には年の離れた兄の世界文学全集がありました。当時私が好んだ本といえば伝記や冒険小説でしたが、書棚のドストエフスキーやモーパッサンなども時折手にしました。内容は理解できなかつたものの、おかげで文字に接する機会が多かったです。

読むたびに新たな扉を開く 名著は読者を映し出す鏡

くでしたが、その時はざっと目を通した程度でした。ところが三井物産に入社した後、上司に「読書というのは、昔の士農工商でいえば一番下だが、士の矜持を持たなくては行けない」という話を聞き、本書を読み直してみることにしました。

「良い仕事」の土台は、人づくり

三井物産のトップに立つ以前から、飯島さんが心を配っていたのは「コミュニケーション」。数百人の部下を率いていた本部長時代には、本部員の一一人ひとりと話をしたという逸話が残る。現在もワンダムに選ばれた社員10人前後、役員をばらばらと、さくばらんに何と語り合う「話そう会」を定期的に開催。前社長時代に始まった月に1回夕方から本社の食堂に社員と経営幹部が集まる「アクティブ・トーク・ウェンデー」にもできるだけ顔を出すと、風通しの良いコミュニケーションに努め惜しまない。



1950年神奈川県生まれ。74年横浜国立大学経営学部卒。同年4月三井物産株式会社入社。鉄鋼原料本部製鋼原料部長、金属総括部長、金属・エネルギー総括部長などを歴任。2006年執行役員 鉄鋼原料・非鉄金属本部長。08年4月執行役員 金属資源本部長。08年4月常務執行役員。同年6月代表取締役 常務執行役員。同年10月代表取締役 専務執行役員。09年4月代表取締役社長に就任。

人間の可能性を信じ 常に前向きな心で

人を通じて世界と結ばれている私たちが世界に対して何ができるのかを考えた時、大きな感銘を与えてくれるのが、世界銀行で副総裁を務められた西水美恵子さんの著書「国をつくるという仕事」です。西水さんは想像を絶する貧困の中にいる人々と真正面から向き合い、苦しみの声を政治へとありのままに届けて、世界のリーダーたちの心を動かしました。

民間企業や開発援助機関の活動においても、世界の貧困層の生活向上に寄与できる事業を展開し、同時にさまざまな社会的問題に対する解決手段を提供するBOP (Base of the Pyramid) ビジネスが今注目されています。三井物産の取り組みの一つとして紹介する、アフリカのモザンビークに太陽光発電を利用した灌漑用水ポンプ設備を建設し、地域の人々に農業開発を通じて経済的自立に役立ててもらおうというプロジェクトをスタートさせました。

最後は私を勇気づけてくれる本として身近に置いて、中村天風の『運命を拓く』です。天風氏は心の持ちようが人の人生に大きく働きかけると説きました。人間の可能性を信じて自己修練を怠らず、自然界との調和した生き方を教える本書は、人間は清く明るく美しく、前向きでなくてはならないと説きます。

飯島彰己さんがすすめる5冊

『ドラッカー 365の金言』(ダイヤモンド社) P.F.ドラッカー著 上田博生訳

『ゲイツとバフェット 新しい資本主義を語る』(徳川書店) マイケル・キンスレー著 和泉裕子、山田美明訳

『国をつくるという仕事』(英治出版) 西水美恵子著

『知識創造企業』(東洋経済新報社) 野中郁次郎、竹内弘高著 梅本勝博訳

『運命を拓く 天風夢想録』(講談社) 中村天風著

自分の始末 人生を楽しく、賢く、知恵とは...? 曾野綾子著

チーズはどこへ消えた? 370万部突破 菊池雄星 心の9冊

空に向かつて 安藤美姫著

寂聴 生き方見本 瀬戸内寂聴著